

せいけん
詩集

第百四十九篇

作：近藤せいけん

「故郷を 想う 2」

はらはらと 雪が舞い

北風 びゅうびゅうと吹き

しんしんと 寒さ 身体さす

冬の日

思い出は

雪と共にあり

人と共にあり

凍れる寒さ 夢の中に浮かぶ

故郷は 故郷は

雪景色の中に あり

春風吹き

草花が咲き 香りを連れてくる

春 春

待ち遠しい三月

人生の春 スタートを切る季節

穏やかな 季節の中

帰つて来い 戻つて来い

故郷人がいる 地に

故郷 故郷は

君を待っている

